

2015年5月7日
 株式会社 リクルート ジョブズ


-主婦の就業に関する1万人調査- 50～69歳女性の就業状況

株式会社リクルートジョブズ(本社:東京都中央区、代表取締役社長:柳川昌紀)の調査研究機関「ジョブズリサーチセンター(<http://jbrc.recruitjobs.co.jp/>)」が、2013年12月に行った「主婦の就業に関する1万人調査」のうち、「50～69歳女性の就業状況」をまとめましたので、ご報告いたします。

【全体概要】

○ **就業率42.0%、現在無業だが就業意向がある人は21.9%。就業意向がない人は36.2%** [3P]

有職者の現雇用形態は、アルバイト・パート56.1%、派遣・契約社員7.8%、正社員19.8%。無業・就業意向者21.9%のうち、過去1年以内に仕事探しをした人は10.2%、仕事探しはしなかったが就業意向が高い人は9.1%、仕事探しはせず就業意向も「いずれは」と低い人は2.6%となった。無業・就業意向者の希望雇用形態はアルバイト・パート中心。

○ **就業率に影響を与える要素は「本人年齢」「同居している子供の人数」「預貯金額」** [4-5P]

50～54歳の就業率は51.4%と高水準だが、その後は本人年齢が上がるほど就業率は低下、就業意向がない人も増加する。同居している子供の人数が多いほど就業率は上がる。また預貯金額が少ないほど就業率は上がる傾向。

【有職者(アルバイト・パート)の就業実態】

○ **「場所」へのこだわりは強いが、「休日」「時間」への重視度合いは20～49歳より低下** [6-7P]

50～69歳は20～49歳と比べて全体的に重視度合いが低い。場所に対するこだわりの強さは20～49歳と同様だが子育てが一段落して制約条件が緩和されるため、「休日」や「時間」への重視度合いは下がる。結果、休日の曜日や始業時間、終業時間も20～49歳より融通が利きやすくなる。

○ **「介護スタッフ」「清掃、ビルメンテナンス」など、50～69歳が働きやすい職種が上位に** [8P]

50～69歳が現在働いている職種は、「一般事務・スタッフ職(20.9%)」「CVS・スーパー店員(8.3%)」「介護スタッフ(5.4%)」「清掃、ビルメンテナンス(4.8%)」「医療関連(4.5%)」と続く。「一般事務・スタッフ職」の人気の高さは20～49歳同様だが、「介護スタッフ」「清掃、ビルメンテナンス」「塾講師、家庭教師、採点、通信教育」「コールセンター・テレマスタッフ」「調理人、コック」は20～49歳よりも上位になる。これらは50～69歳が働きやすい職種と言える。

○ **仕事をする目的は経済的な理由が大半だが、経済的要因以外の理由も増える** [10P]

20～49歳同様、経済的な理由が大半を占めるが、20～49歳よりも経済的理由の比重は下がり、「社会とのつながりを得るため」「働くことが好きだから」「社会に貢献するため」といった、経済的要因以外の理由が増える。

【無業・求職者(アルバイト・パート)の仕事探しの実態】

○ **無業・求職者の半数が仕事が見つからずにあきらめている。理由は「職種のなさ」「年齢の壁」** [12P]

無業・求職者(50～69歳の10.2%)のうち、「過去1年間で仕事探しをして、新しい仕事が決まった」人は4.6%。20～49歳と比べて、「仕事探しをしたが、見つからず、現在は仕事探しをやめている」人が圧倒的に多く、50.3%存在する(=あきらめ層)。働く意思があるのに、見つかっていない、もしくは仕事探しをやめた理由として、特に60歳以上は「希望する職種の募集が少ないから」を理由に挙げる人が急激に増える。また、その他と回答して理由を答えた人の2/3が「年齢の壁」を理由に挙げている。

【本件に関するお問い合わせ先】
<http://www.recruitjobs.co.jp/RJB/contact.html>

【調査概要】

本調査は、18歳以上の女性のうち、「既婚」もしくは「子供あり」を対象に、主婦の就業・求職実態(状況、行動、意義)、
普段の情報接触実態を明らかにするための調査である。

そのうち本レポートでは「50～69歳の女性」にフォーカスして分析を行う。さらに、現在の就業状況と求職状況・今後の就業意向
により、A～Eに5分類した。

※本レポートの20～49歳のデータは、P5まで20～49歳女性の全体(n=6,431)で、P6～P12が「既婚・子供あり」「既婚・子供なし」「未婚・離死別・子供あり」の有職者アルバイト・パート(n=1,466)を対象としている。2014年10月24日にリリースした『主婦の就業に関する1万人調査 20～49歳の既婚・子供あり女性の就業状況』とは対象が異なることに留意。20～49歳の「既婚・子供あり」についての詳細は先述レポートを参照されたい。

■調査方法 インターネット調査(マクロミル社モニター利用)

■調査期間 2013年12月17日(火)～12月20日(金)

■調査対象 18歳以上、下記在住の女性 (n=10,240人)

北海道、新潟、東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、岐阜、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、福岡

■本レポート対象 50～69歳の女性 (n=3,644人)

20歳未満 (n=13)		20～49歳 (n=6,431)		50～69歳 (n=3,644)		70歳以上 (n=152)
同居している子供の有無*1						
子供あり				子供なし		
婚姻 状況	既婚	既婚・子供あり (n=2,624)		既婚・子供なし (n=621)		
		有職者	1,073 (40.9%)	有職者	210 (33.8%)	
		無業・求職者	277 (10.6%)	無業・求職者	49 (7.9%)	
		無業・非求職者・就業意向あり	317 (12.1%)	無業・非求職者・就業意向あり	79 (12.7%)	
		無業・非求職者・就業意向なし	957 (36.5%)	無業・非求職者・就業意向なし	283 (45.6%)	
婚姻 状況	未婚 ・ 離死別	子供あり(既婚除く) (n=399)				
		有職者	247 (61.9%)			
		無業・求職者	44 (11.0%)			
		無業・非求職者・就業意向あり	28 (7.0%)			
		無業・非求職者・就業意向なし	80 (20.1%)			

➔ 本レポートの対象者*2

■分析セグメント (n=3,644人)

有職者*3 (n=1,530) ※括弧内は 現雇用形態	無業者*4 (n=2,114) ※括弧内は最も希望する雇用形態			
	過去1年間の求職状況と今後の就業意向			
	過去1年間に 仕事探しをした	仕事探しはして いないが意向高 「すぐにも」「よい仕事があれば」	仕事探しはして おらず意向低 「いずれは」	仕事探しをして おらず意向なし 「職業をもっとりはない」
A 1,530人(42.0%) (AP*5 : 858人) (派契 : 120人) (正社 : 303人) (他 : 249人)	B 370人(10.2%) (AP : 296人) (派契 : 20人) (正社 : 33人) (他 : 21人)	C 330人(9.1%) (AP : 235人) (派契 : 22人) (正社 : 22人) (他 : 51人)	D 94人(2.6%) (AP : 58人) (派契 : 5人) (正社 : 10人) (他 : 21人)	E 1,320人(36.2%) 就業意向なし

・就業状況
・理想と実態
・満足度・やりがい

・就業意向者の実態

*1 主婦の働き方には「同居している子供の有無」が影響しやすいため、同居している子供でセグメント分け

*2 調査結果は、小数点第二位四捨五入のため、TOTALが100%にならない場合がある

*3 有職者へも過去1年間の求職状況はたずねているが、分析セグメントでは求職活動の有無にかかわらず有職者全体として見ていくこととする

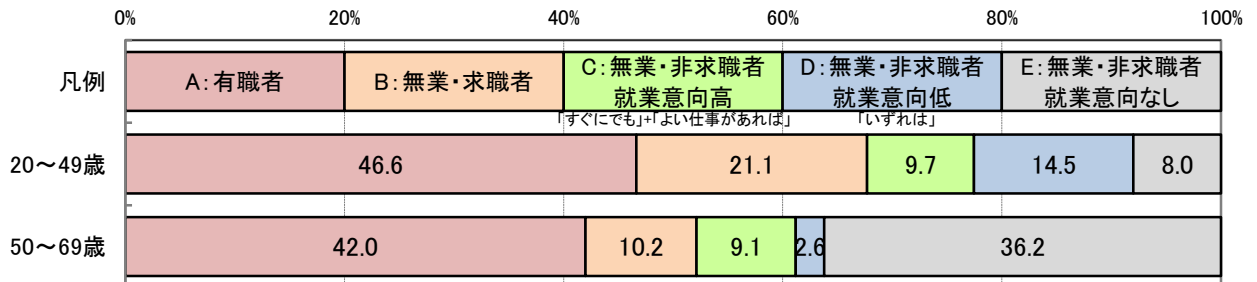
*4 無業者については、就業への「本気度」により求職状況や意識に差異があるのではないかと仮説に基づき、過去の求職行動と今後の就業意向を用いて4セグメントに分割(Bが最も本気度が高い)

*5 アルバイト・パート

50～69歳女性の就業状況 (1)全体概要

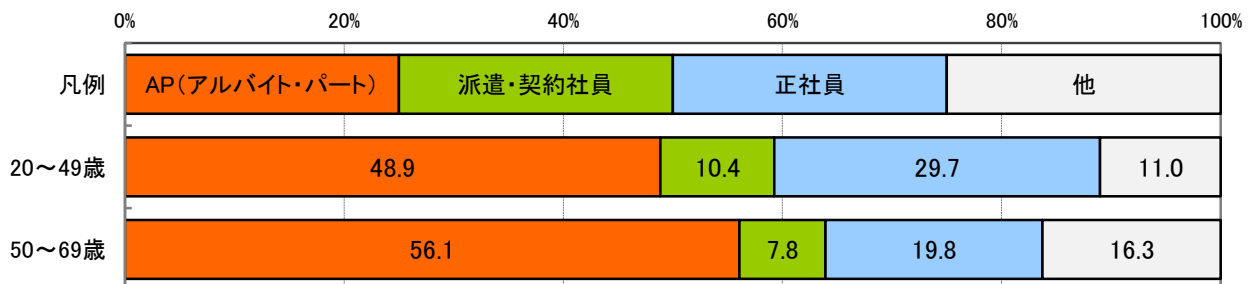
■就業率および無業者の就業意向

50～69歳の女性の有職者(A)は42.0%。無業者のうち、就業意向がある人(B+C+D)は21.9%、そのうち、求職者(過去1年間に仕事探しをした人)は10.2%(B)、仕事探しはしなかったが就業意向が高い人は9.1%(C)、仕事探しはせず、就業意向も「いずれは」と低い人は2.6%(D)。就業意向がないと答えた人は36.2%存在する(E)。



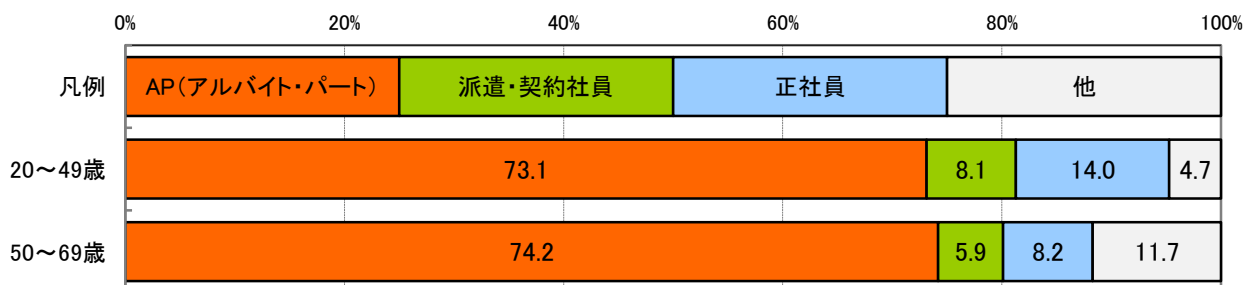
■有職者(A)の現雇用形態

有職者(A)の現雇用形態は、アルバイト・パート56.1%、派遣・契約社員7.8%、正社員19.8%、その他16.3%。20～49歳よりも「アルバイト・パート」「他」比率が高く、正社員比率が低い。



■無業・就業意向者(B・C・D)の希望雇用形態

無業・就業意向者(B・C・D)の希望雇用形態は、アルバイト・パート74.2%、派遣・契約社員5.9%、正社員8.2%、その他11.7%。20～49歳同様、「アルバイト・パート」が約3/4を占める。



50～69歳女性の就業状況 (1)全体概要

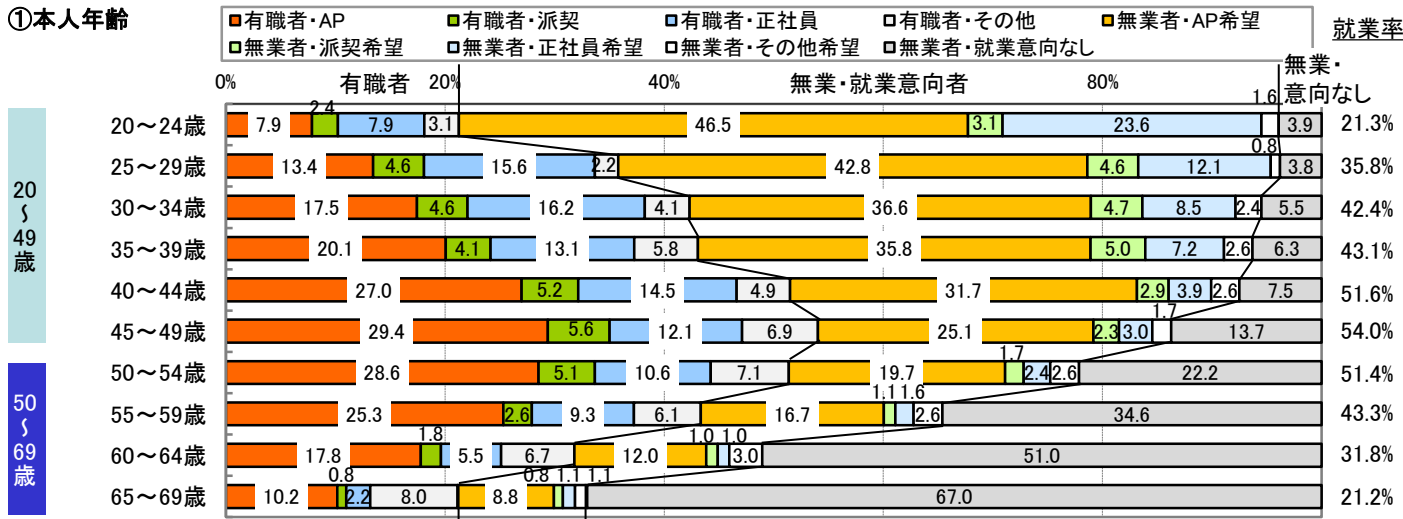
■就業率に影響を与える要素

50～69歳女性の就業率に影響を与える要素は、「本人年齢」「同居している子供の人数」「預貯金額」。

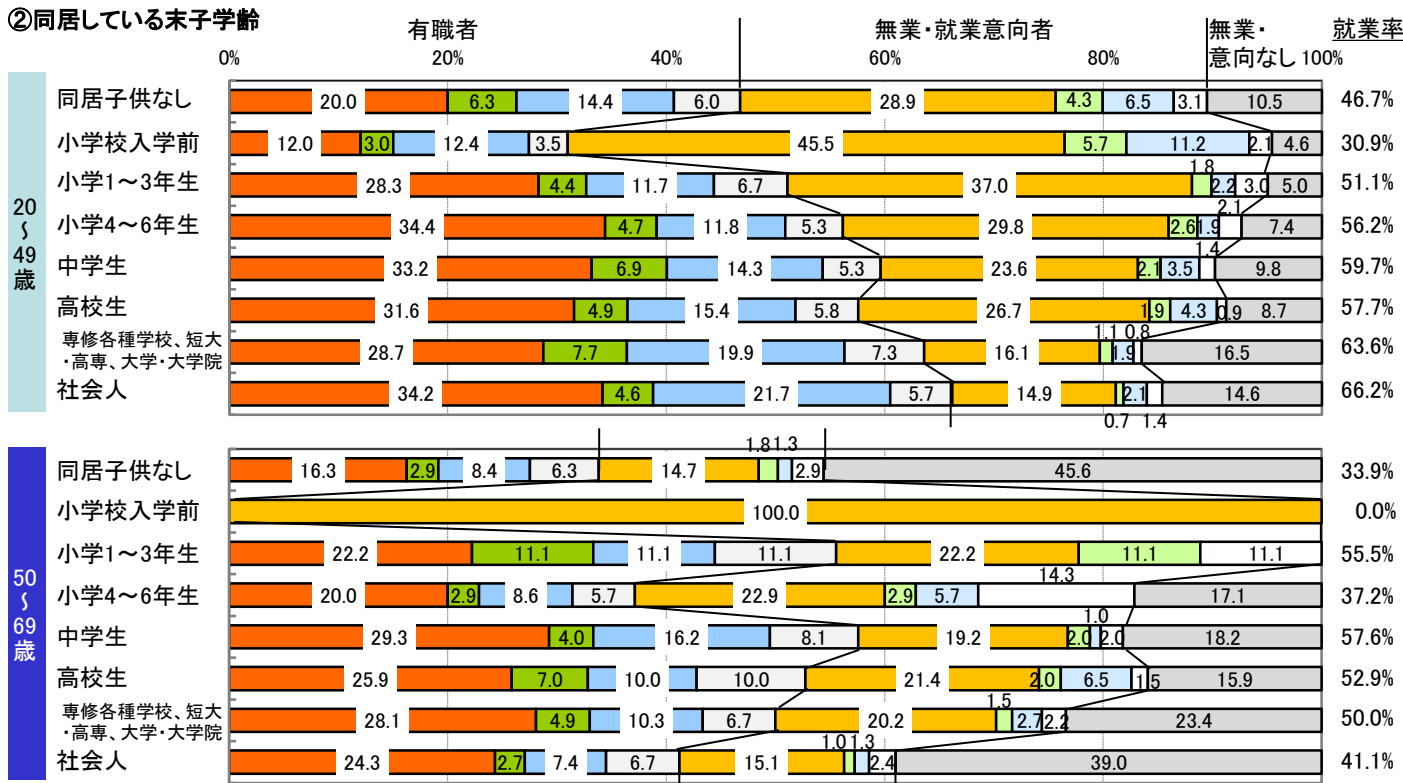
50～54歳女性の就業率は51.4%と、40代と同様に高水準だが、その後は本人年齢が上がるほど就業率が低下、就業意向がない人も増加する。一方、無業・就業意向者は一定量存在(50～54歳:26.4%、55～59歳:22.0%、60～64歳:17.0%、65～69歳:11.8%)。

50～69歳では、同居している末子学齢が上がるほど就業率が低下しており、これは20～49歳とは逆の傾向となる。末子学齢が上がりが子育てが落ち着くと、通常、就業率は高まる傾向にあるが、50～69歳女性については本人年齢が強く影響していると思われる。

①本人年齢



②同居している末子学齢



50～69歳女性の就業状況 (1)全体概要

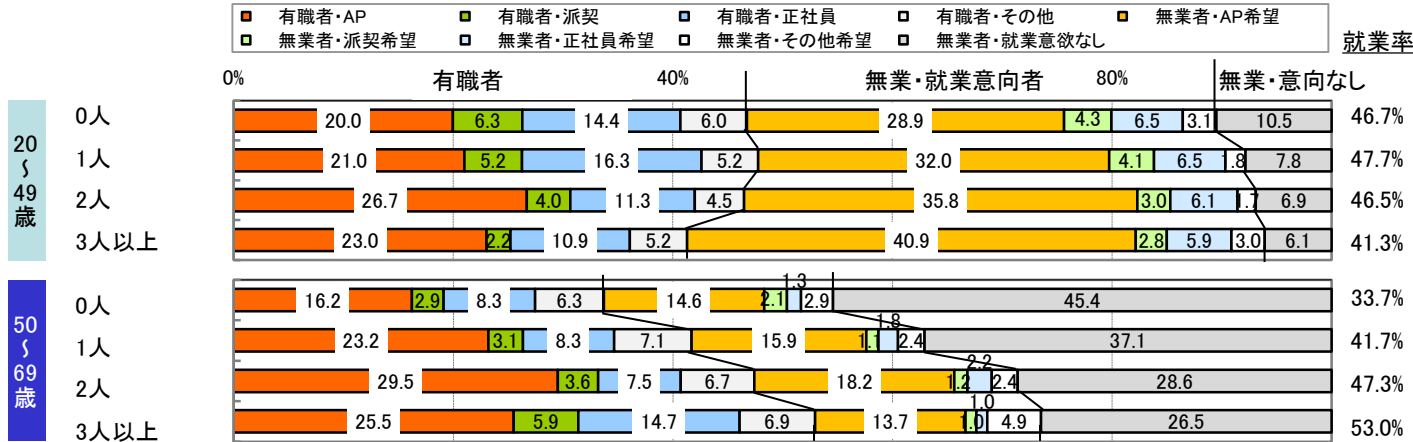
■就業率に影響を与える要素

同居している子供の人数が多いほど、50～69歳女性の就業率は上がる。これは、子供による家事のサポートによるもので、人数が多いほど子供間での役割分担がなされ、より働きやすい環境が整備される傾向にある。

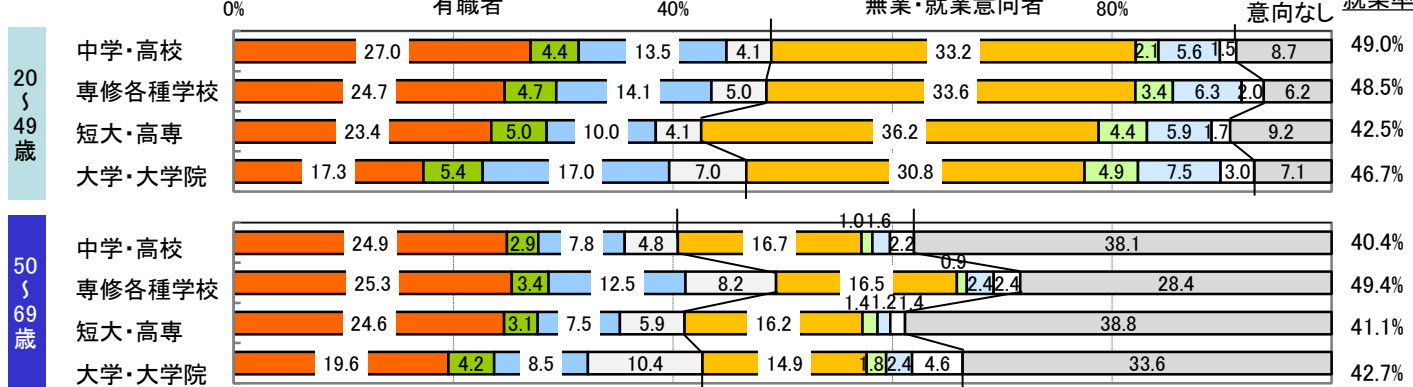
本人の最終学歴は、専修各種学校卒の就業率・正社員比率が明らかに高い。この方たちの現在の職業は、「看護師」「医療関連」「理容師・美容師」等、特定の資格を有する『手に職系』の仕事が多く、これらの仕事に従事する人は、50歳以上になっても安定して仕事を求められる環境にある。

預貯金額が少ないほど就業率は高く、預貯金500万未満の就業率は56.1%と高水準。

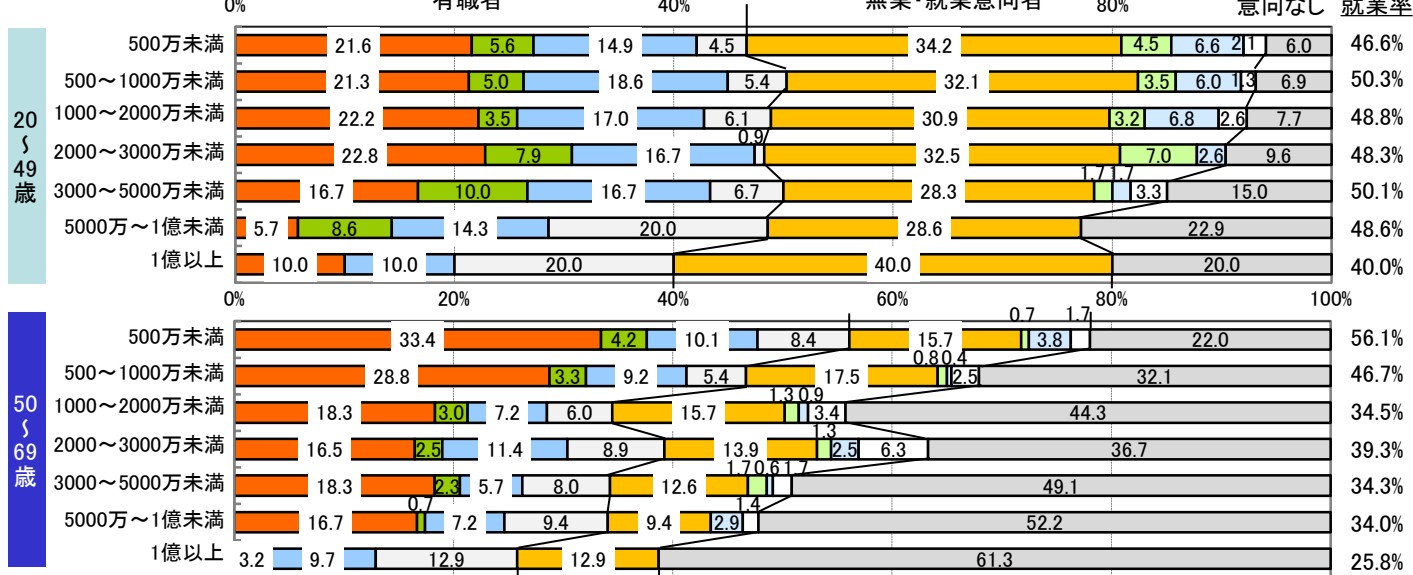
③同居している子供の人数



④本人の最終学歴



⑤預貯金額

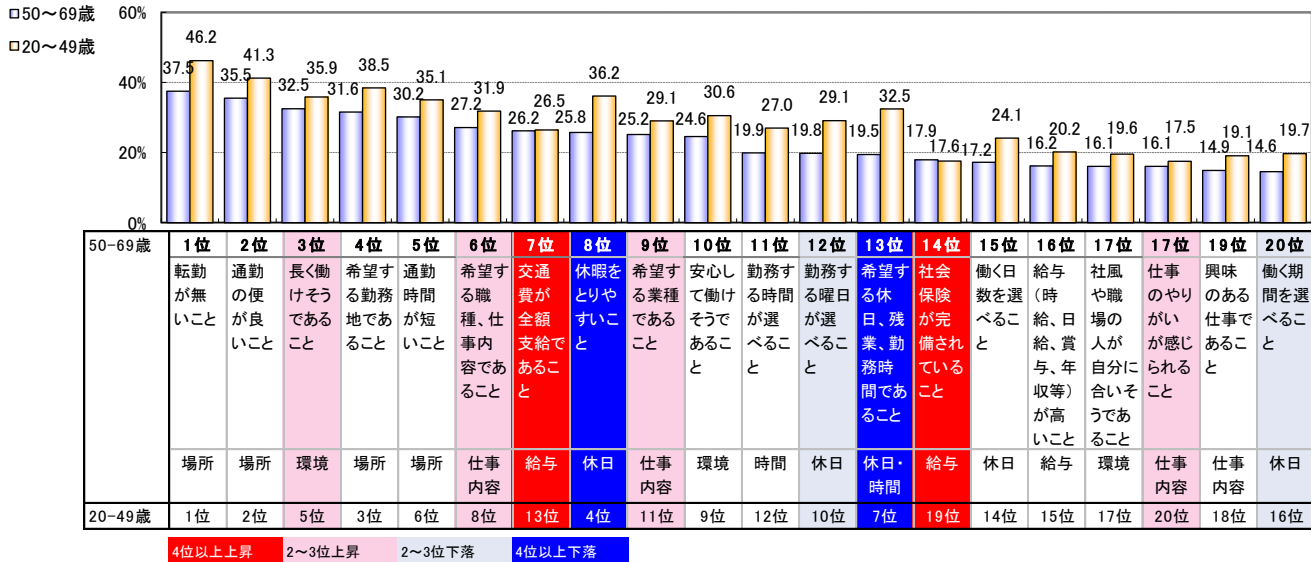


50～69歳女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=858)の就業実態

■ 仕事を選ぶ際の重視項目 ※43項目中「非常に重視する」が選択された上位20項目

50～69歳は20～49歳と比べて全体的に重視度合いが低い。場所に対するこだわりの強さは20～49歳と同様で、上位5項目のうち4項目が場所に関するものとなった。

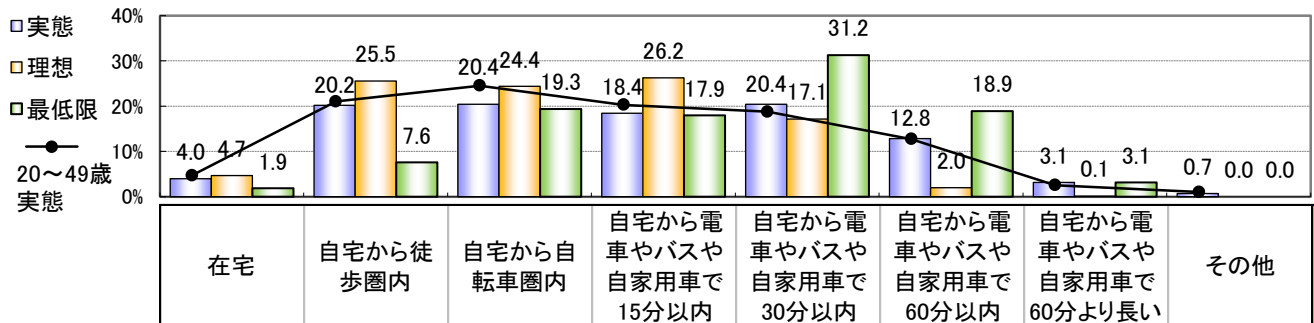
20～49歳よりも優先順位が上がる項目は、「環境(長く働けそう)」「給与(交通費が全額支給、社保完備)」「仕事内容(希望する職種・業種、やりがい)」。一方、優先順位が下がる項目は、「休日」や「時間」。子育てが一段落した年代のため、休日や時間の制約が緩和される。



■ 働く条件の理想と実態 (1)通勤時間

現在の職場の通勤時間は、「自宅から徒歩圏内(20.2%)」から「自宅から電車やバスや自家用車で30分以内(20.4%)」が多い。20～49歳と比べて、多少通勤時間が長くなる(30分以内+2.3pt、60分以内+0.8pt、60分より長い+1.3pt)。

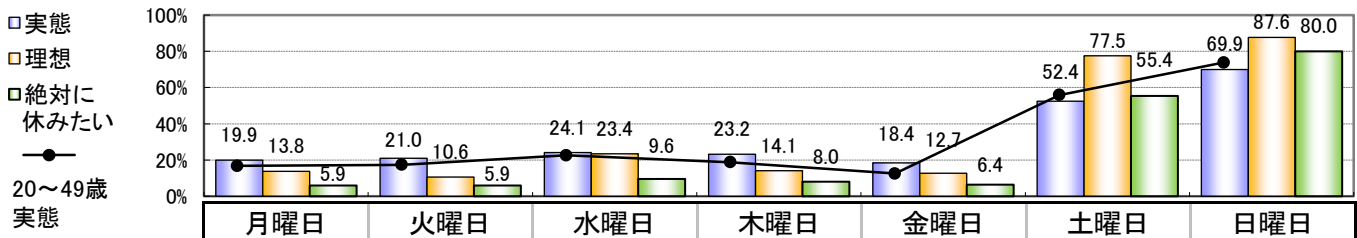
理想的な通勤時間も、ほぼ同様の傾向。最低でもこれよりも近くでないとい困る通勤時間は、「自宅から電車やバスや自家用車で30分以内(31.2%)」。20～49歳同様、職住近接型での働き方である。



■ 働く条件の理想と実態 (2)休日の曜日 ※複数回答

現在の職場の休日は、「日曜日(69.9%)」「土曜日(52.4%)」中心で、平日も2割前後の人が休んでいる。20～49歳と比べて、土日休みの人がやや少ない(土曜日-3.6pt、日曜日-3.5pt)。

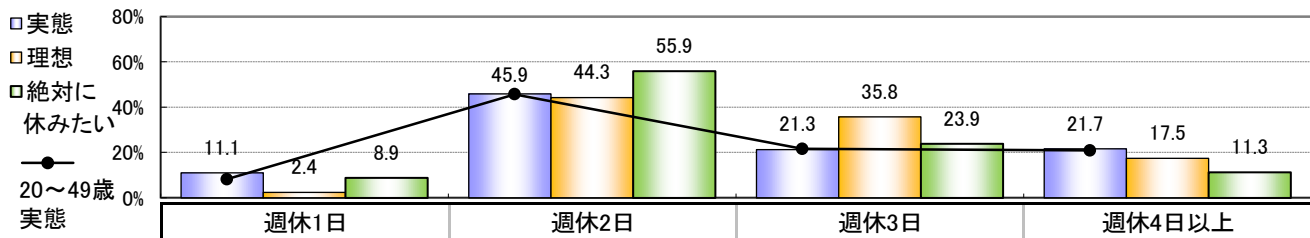
理想的な曜日は、圧倒的に「日曜日(87.6%)」「土曜日(77.5%)」が多く、なかでも絶対に休みたい曜日は「日曜日(80.0%)」のため、勤務先の都合もあり、実際には土曜日を譲っている人が多い。



50～69歳女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=858)の就業実態

■働く条件の理想と実態 (3)休日の日数

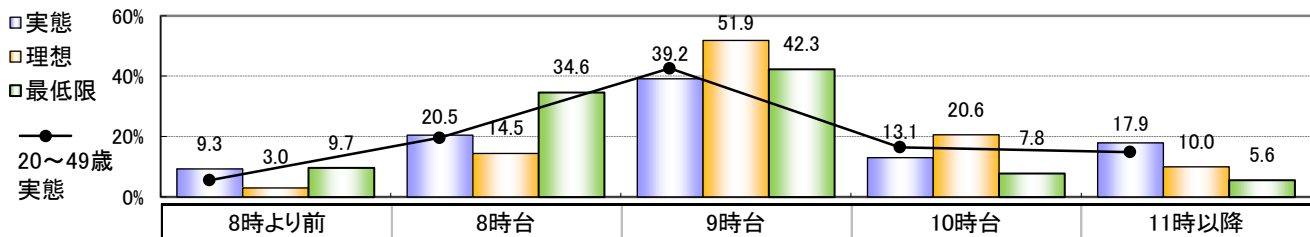
現在の職場の休日は「週休2日(45.9%)」が多く、次いで「週休3日(21.3%)」「週休4日以上(21.7%)」が続く。理想的な休日の日数は、「週休2日(44.3%)」が多いのは実態と同様だが、実態より「週休3日(35.8%)」を希望する人が増える。絶対に休みたい日数は「週休2日(55.9%)」。



■働く条件の理想と実態 (4)始業時間

現在の職場の始業時間は、「9時台(39.2%)」「8時台(20.5%)」中心。20～49歳と比べて、「8時より前(+3.1pt)」「11時以降(+2.7pt)」が増える。

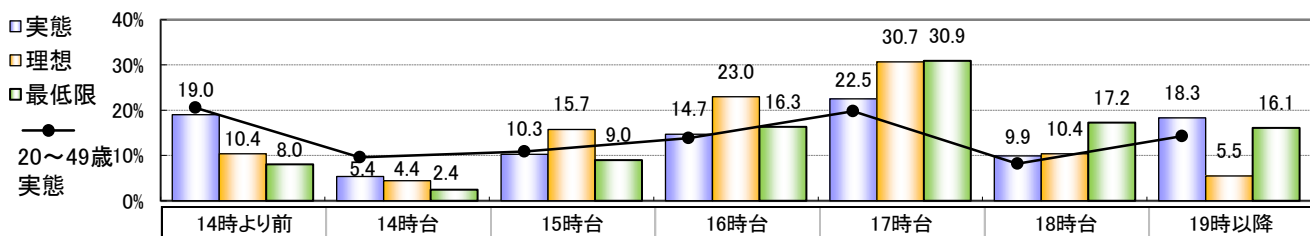
理想的な始業時間は「9時台(51.9%)」「10時台(20.6%)」だが、実際には理想より1時間ほど早めに働き始めている。最低でもこれくらいならなら出社(店)できる始業時間は、「9時台(42.3%)」「8時台(34.6%)」。



■働く条件の理想と実態 (5)終業時間

現在の職場の終業時間は、「17時台(22.5%)」が多く、次いで「14時より前(19.0%)」「19時以降(18.3%)」「16時台(14.7%)」と続く。20～49歳と比べて、「19時以降(+3.6pt)」「17時台(+2.5pt)」が増える。

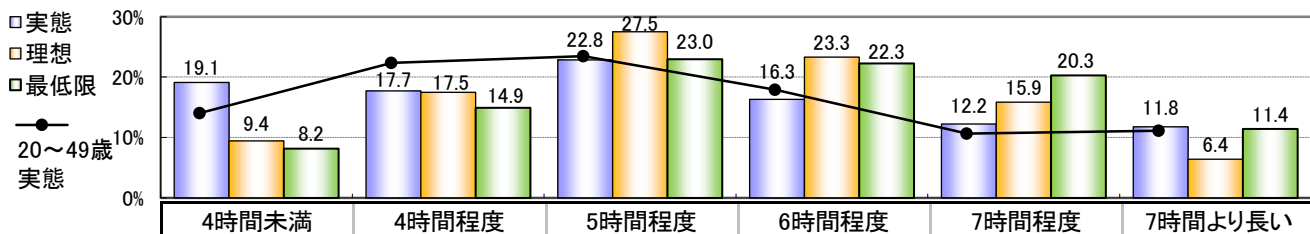
理想的な終業時間は、「17時台(30.7%)」「16時台(23.0%)」が多い。最低でもこれくらいには帰りたい終業時間は、「17時台(30.9%)」が最も多いが、「18時台(17.2%)」「19時以降(16.1%)」も一定数存在。20～49歳の「19時以降(10.7%)」と比べると「19時以降(+5.4pt)」が増える。



■働く条件の理想と実態 (6)一日の就業時間

現在の職場の一日の就業時間は、「5時間程度(22.8%)」「4時間未満(19.1%)」「4時間程度(17.7%)」が多い。20～49歳と比べて、「4時間未満(+4.9pt)」が増える。

理想的な就業時間は、「5時間程度(27.5%)」「6時間程度(23.3%)」が多く、一日に最低これくらい働ける、働きたいと思う就業時間も、「5時間程度(23.0%)」「6時間程度(22.3%)」「7時間程度(20.3%)」。本当はもう少し働きたいと思っているが、実際に働いている時間は短い。



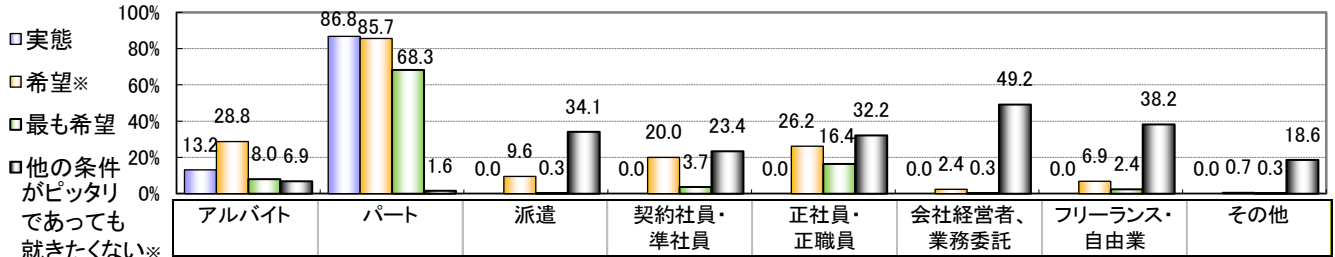
50～69歳女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=858)の就業実態

■働く条件の理想と実態 (7)雇用形態 ※「希望」「他の条件が～」は複数回答

現在働いている雇用形態は、「パート」が86.8%、「アルバイト」が13.2%。

希望する雇用形態は、「パート(85.7%)」が圧倒的に多く、次いで「アルバイト(28.8%)」「正社員・正職員(26.2%)」と続く。最も希望する雇用形態は、「パート(68.3%)」が多いが、「正社員・正職員」も16.4%存在。

一方、他の条件がピッタリであっても就きたくない雇用形態は、「会社経営者・業務委託(49.2%)」「フリーランス・自由業(38.2%)」「派遣(34.1%)」「正社員・正職員(32.2%)」となっている。20～49歳と同様の傾向。

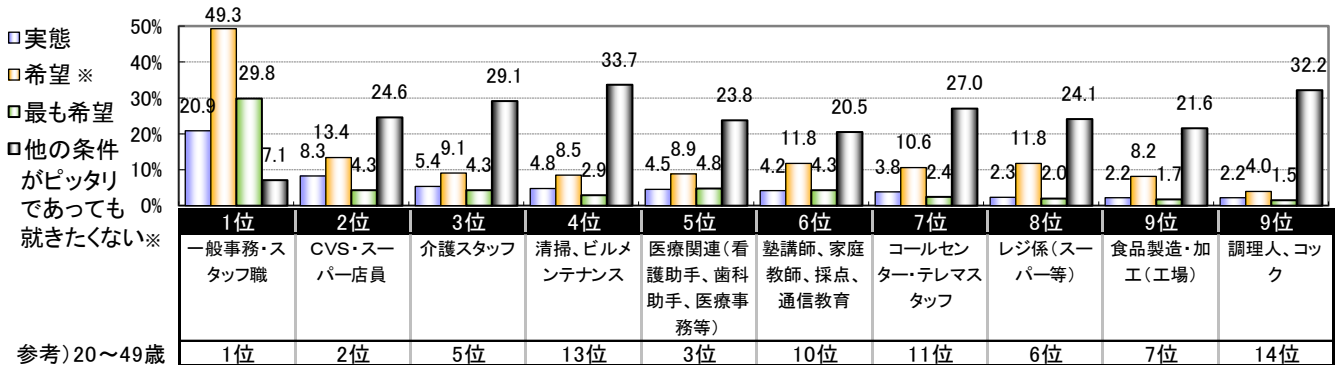


※「実態」「最も希望」は単一回答、「希望」「他の条件が～」は複数回答

■働く条件の理想と実態 (8)職種 ※現在働いている職種の上位10項目 ※「希望」「他の条件が～」は複数回答

現在働いている職種は、「一般事務・スタッフ職(20.9%)」「CVS・スーパー店員(8.3%)」「介護スタッフ(5.4%)」「清掃、ビルメンテナンス(4.8%)」「医療関連(4.5%)」と続く。20～49歳よりも就業順位が高い職種は、「介護スタッフ」「清掃、ビルメンテナンス」「塾講師、家庭教師、採点、通信教育」「コールセンター・テレマスタッフ」「調理人、コック」となった。これらは50～69歳が働きやすい職種と言える。

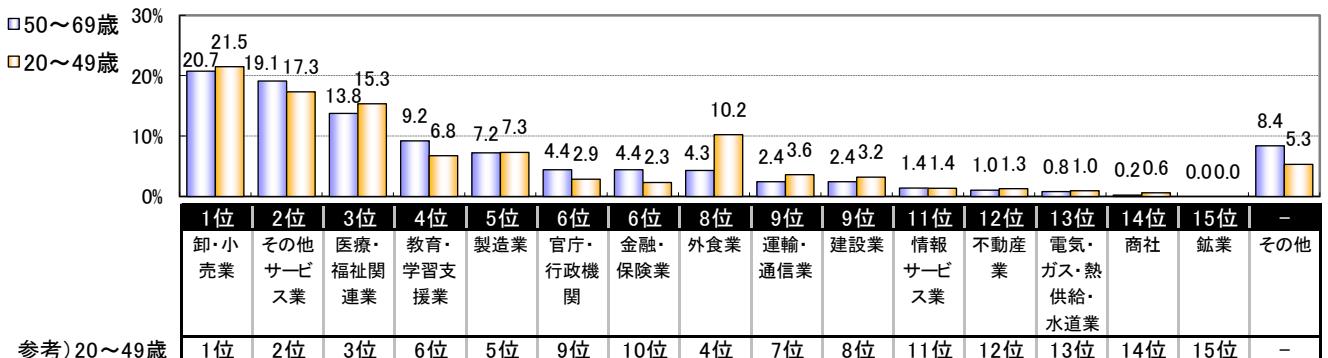
「一般事務・スタッフ職」は、希望者は非常に多いが、実際に働いている人は2割程度にとどまる。一方、「一般事務・スタッフ職」以外の職種は、希望者も存在するものの、他の条件がピッタリであっても就きたくないと答えた人も一定割合存在する。



※「実態」「最も希望」は単一回答、「希望」「他の条件が～」は複数回答

参考) 現在働いている業種

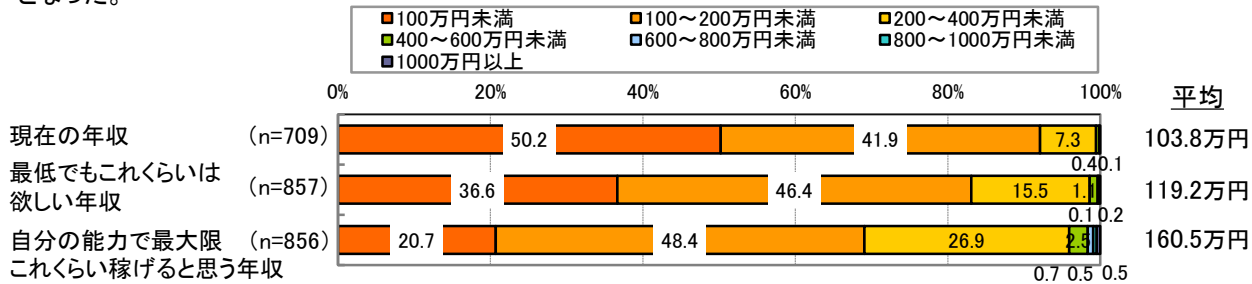
現在働いている業種は、「卸・小売業(20.7%)」が最も多く、次いで「その他サービス業(19.1%)」「医療・福祉関連業(13.8%)」「教育・学習支援業(9.2%)」「製造業(7.2%)」。20～49歳で上位に占めた「外食業(4.3%)」は8位。アルバイト・パートの活用が進む、第三次産業が中心となっている。



50～69歳女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=858)の就業実態

■働く条件の理想と実態 (9)年収

有職者の現在の年収は、平均103.8万円。「100万円未満(50.2%)」「100～200万円未満(41.9%)」が大半である。最低でもこれくらいは欲しい年収は平均119.2万円と、現在の年収平均よりも高くなった(現在の年収比1.1倍)。自分の能力で最大限これくらい稼げるとする年収は平均160.5万円(同1.5倍)となった。



参考) 扶養範囲と年収の関係

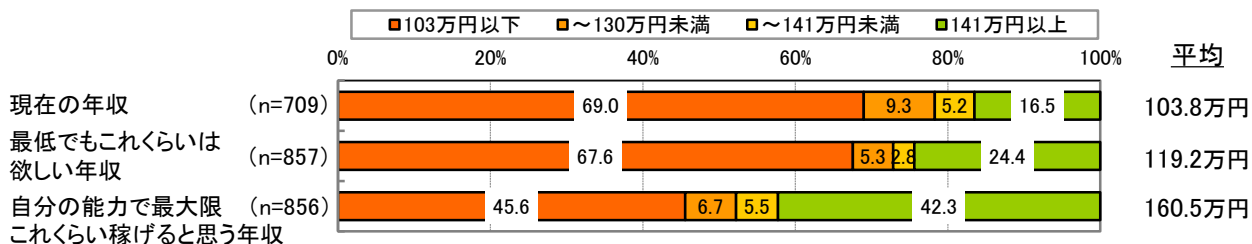
扶養範囲別にみると、「103万円以下※1」が69.0%、「103万円超～130万円未満※2」が9.3%、「130万円以上～141万円未満※3」が5.2%。扶養範囲を完全に外れる「141万円以上」は16.5%存在。

扶養範囲を外れる「141万円以上」は、最低でもこれくらいは欲しい年収でも24.4%、自分の能力で最大限これくらい稼げるとする年収では42.3%となった。

※1) 103万円以下 : 妻の年収に所得税がかからず、夫の税金に配偶者控除が適用される範囲内

※2) 103万円超～130万円未満 : 夫の税金に配偶者特別控除が適用され、かつ、社会保険料の扶養範囲内

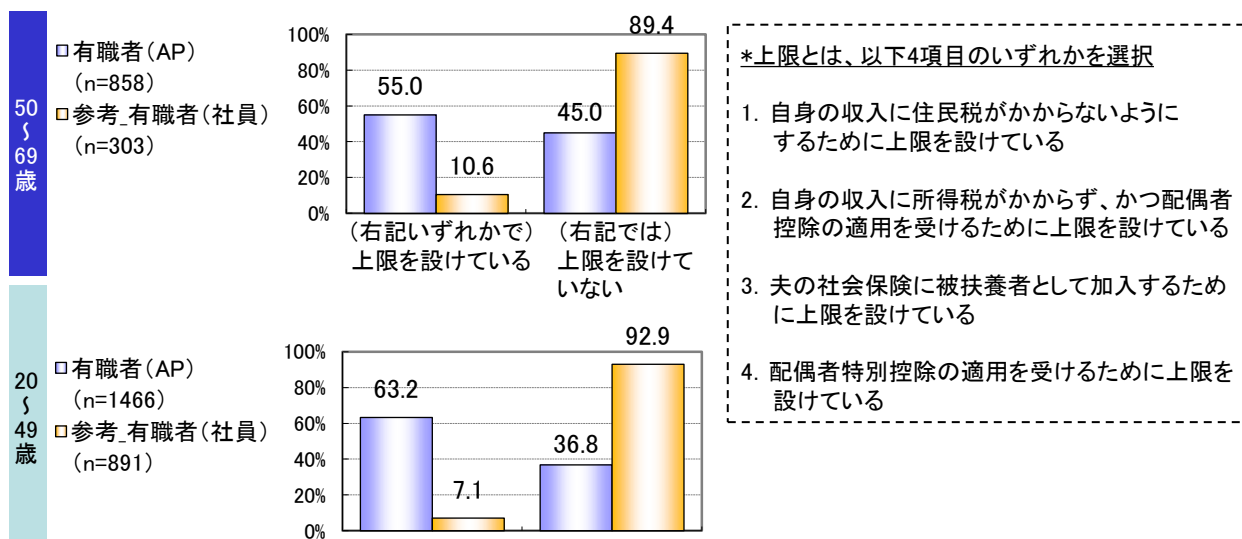
※3) 130万円以上～141万円未満: 夫の税金に配偶者特別控除が適用されるが、社会保険料は自己負担



参考) 年収の上限設定

年収に何らかの上限*を設けて働いているのは、アルバイト・パートの55.0%(社員は10.6%)。

働く女性にとって年収の壁と言われる「103万円の壁」や「130万円の壁」を意識している人は多い。

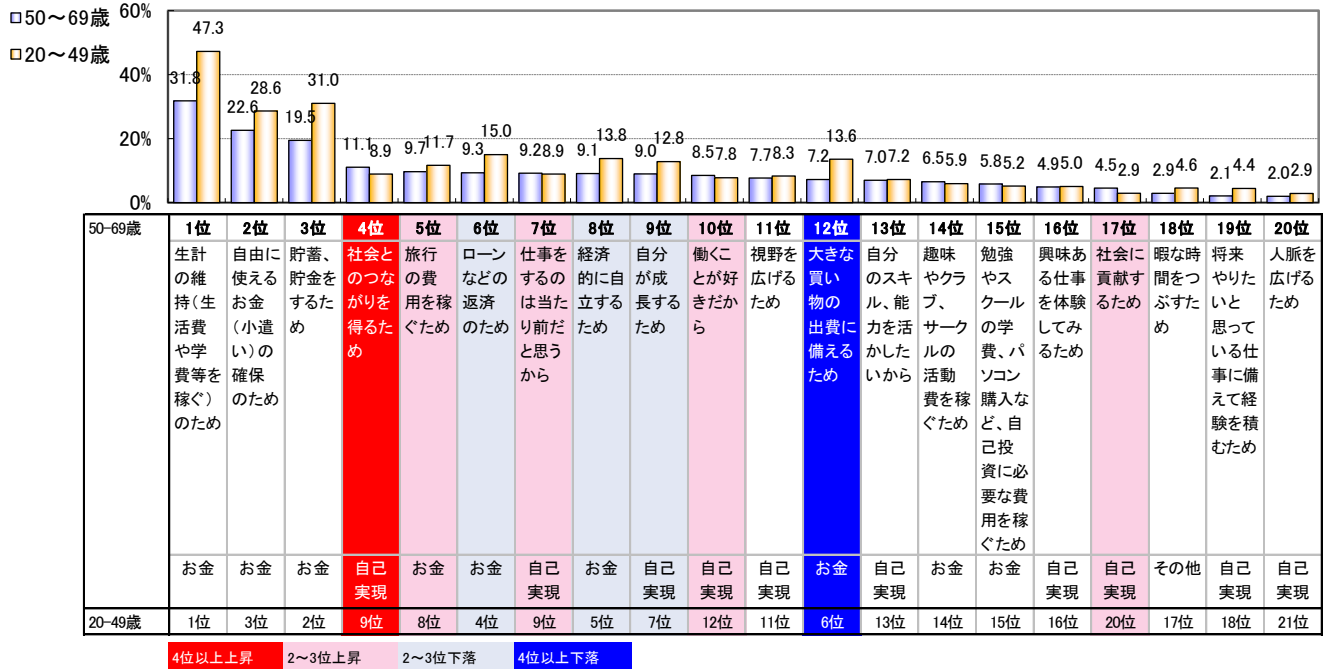


50～69歳女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=858)の就業実態

■仕事をする目的 ※23項目中「かなりあてはまる」が選択された上位20項目

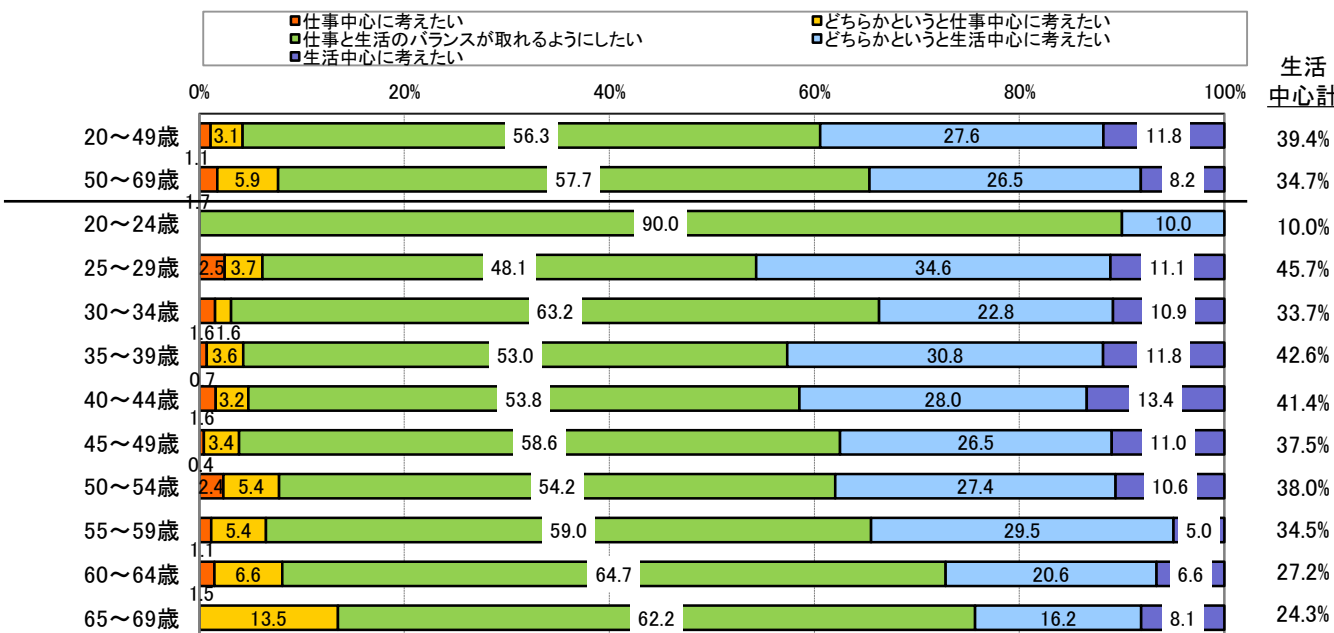
50～69歳女性が仕事をする目的は、20～49歳同様、経済的な理由が大半。上位3位を経済的な理由が占めた[1位:生計の維持(生活費や学費などを稼ぐ)のため、2位:自由に使えるお金(小遣い)の確保のため)、3位:貯蓄、貯金をするため]。

ただし、20～49歳よりも全体的に経済的理由の比重は下がり、「社会とのつながりを得るため」「働くことが好きだから」「社会に貢献するため」といった、経済的要因以外の理由が増える。



■仕事と生活のバランス

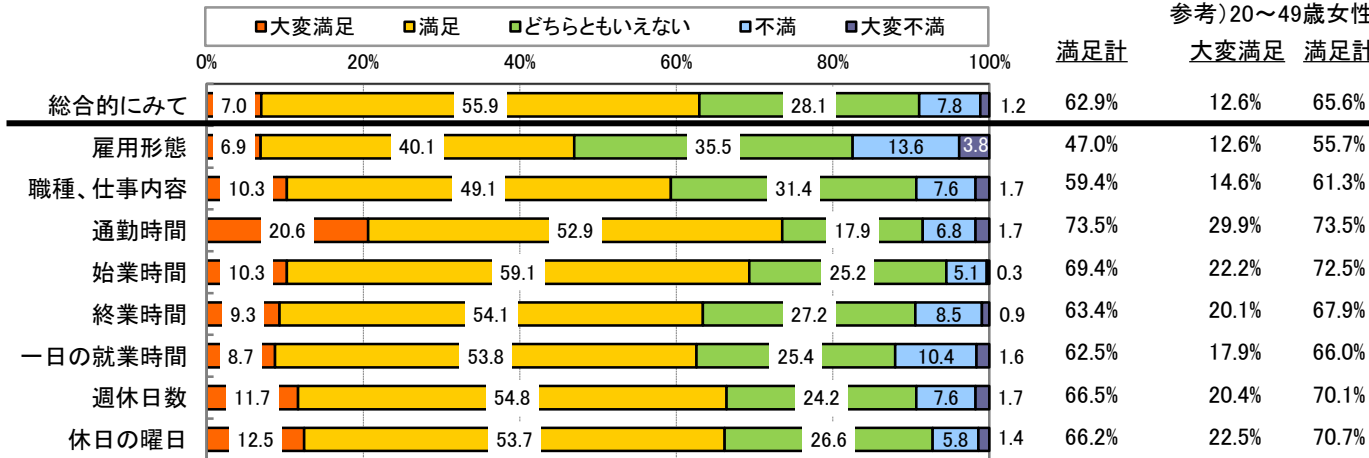
50～69歳女性のほとんどが、仕事と生活の比重について、「仕事と生活のバランスが取れるようにしたい(57.7%)」と回答している。34.7%が「生活中心に考えたい」「どちらかという让生活中心に考えたい」と回答しており、生活中心の傾向は20～49歳同様だが、年齢が上がるとともにその比率は低下し、仕事中心もしくはバランス派が増える。



50～69歳女性の就業状況 (2)有職者(アルバイト・パート/n=858)の就業実態

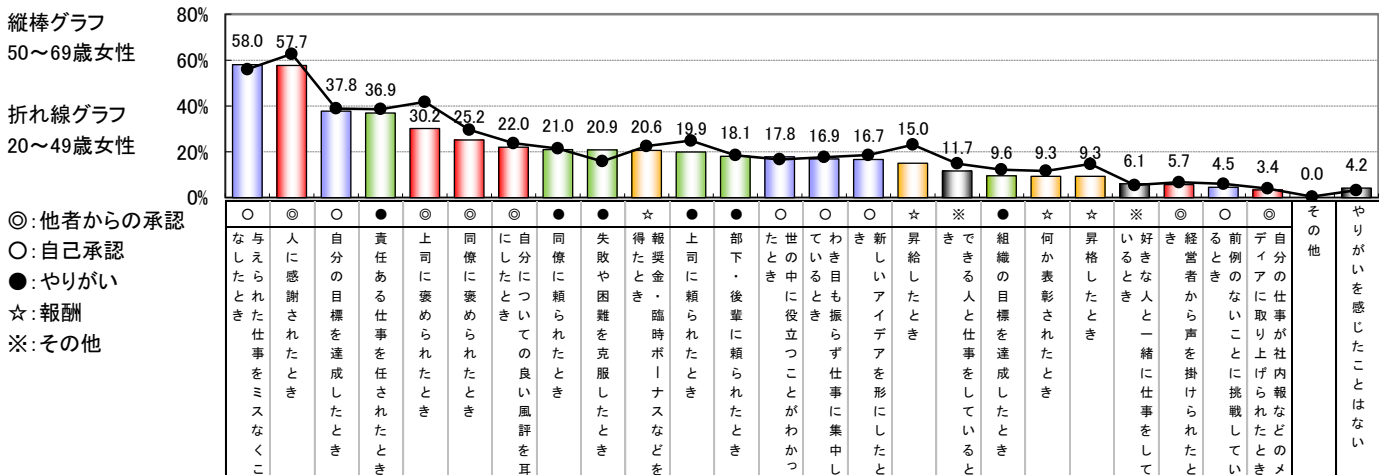
■現在の仕事の満足度

現在の仕事の満足度は、総合的にみて「大変満足(7.0%)」「満足(55.9%)」と概ね満足しており、不満と答えた人は1割にも満たない。就業条件別の満足度では、「雇用形態」「職種、仕事内容」の満足度が比較的低い一方、「通勤時間」「始業時間」の満足度が比較的高い。20～49歳女性と比べて、「大変満足」の比率はやや低い、概ね同様の傾向。



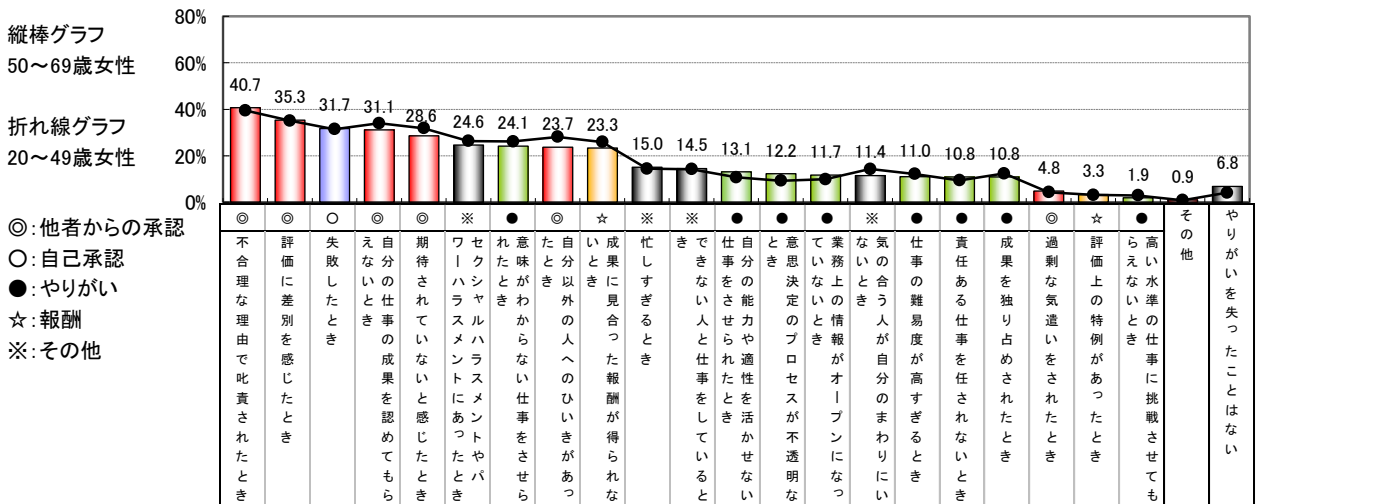
■仕事でやりがいを感じる状況 ※複数回答

仕事でやりがいを感じる状況は、「与えられた仕事をミスなくこなしたとき(58.0%)」「人に感謝されたとき(57.7%)」が過半数を占める。全体的に他者からの承認によってやりがいを感じる傾向が多い。



■仕事でやりがいを失う状況 ※複数回答

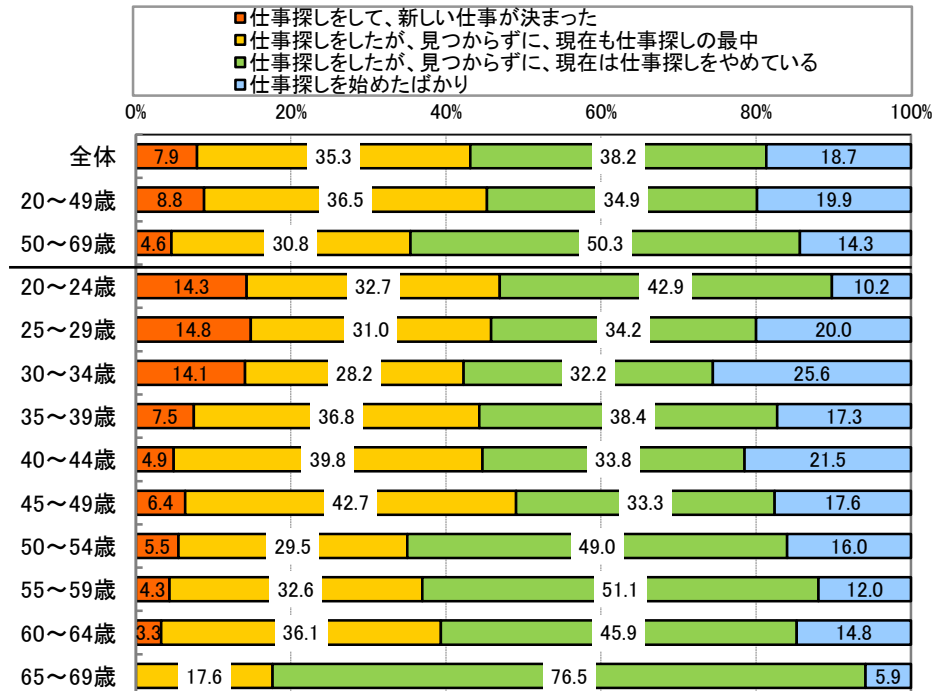
仕事でやりがいを失う状況は、「不合理な理由で叱責されたとき(40.7%)」「評価に差別を感じたとき(35.3%)」「失敗したとき(31.7%)」。他者からの承認を得られずやりがいを失うことが多い。



50～69歳女性の就業状況 (3)無業・求職者(B/n=370)の実態

■無業・求職者の過去1年間の仕事探しの状況

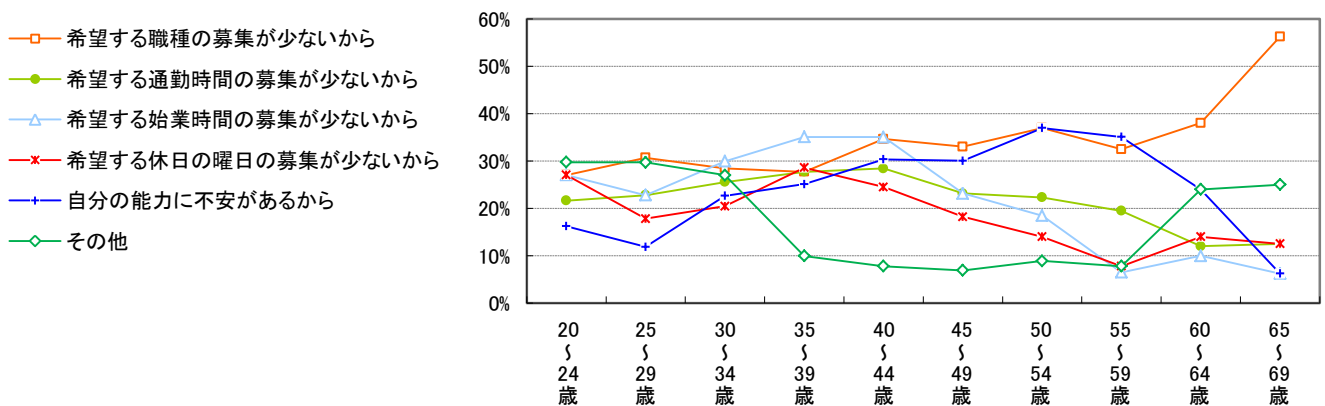
求職者(50～69歳の10.2%)のうち、過去1年間で「仕事探しをして、新しい仕事が決まった」人は4.6%。「仕事探しをしたが、見つからずに、現在も仕事探しの最中」の人は30.8%。20～49歳と比べて、「仕事探しをしたが、見つからずに、現在は仕事探しをやめている」人が圧倒的に多く、50.3%存在する(＝あきらめ層)。



■働く意思があるのに、見つからない、もしくは仕事探しをやめた理由

年齢が上がると子育てが一段落するため、時間や休日に関するこだわりは減少する。

一方、特に60歳以上になると、「希望する職種の募集が少ないから」を、見つからないもしくは仕事探しをやめた理由に挙げる人が急激に増える。能力不安は職種へのこだわりが下がると影響しなくなる。なお、その他と回答して理由を答えた人の2/3が「年齢の壁」を、次いで1割強の人が「体力や健康不安」を理由に挙げた。



※その他理由の内容(自由回答より抜粋)

- 2/3の人が記載した理由
- 1割強の人が記載した理由

「年齢制限があるから」
「自分の体力や健康に不安があるから」